（別紙4）　　平成　29　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）　29

事業所番号	2693300150		
法人名	特定非営利活動法人　ふくし京丹後		
事業所名	グループホーム　善王寺　さくら・Aユニット		
所在地	京丹後市大宮町善王寺527		
自己評価作成日	平成30年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　野の花
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地
訪問調査日	平成30年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

緑豊かな自然の山に囲まれ、テラスからは季節を目で感じる事が出来る田畑が広がり、春には、田植え又秋になると稲刈り、一年を通じて、国の天然記念物であるコウノトリがテラスから眺められ、安らぐのどかな雰囲気が味わう事の出来る施設です。
御利用者の持続能力低下予防の為、出来る事は、自分で何でもして頂き、存在能力の保持継続につながる様、力を入れています。又、年間行事をボランティアの方々と一緒に行う計画を立て、地元の中学生や地域の方々、又御家族様の協力の元一丸となって取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

京丹後市大宮町、里山風景が広がる地域にある開設満6年になる2ユニットのグループホームである。地元住民の理事長が地元への貢献のためにと開設した介護事業、広々とした前庭に木製のゆったり広いグループホームが建つ。利用者も職員も地元の住民である。労働条件が良く給料も比較的高く、職員の離職がない。利用者は三河内祭り、納涼祭、花火大会、秋祭り等地元の祭りを満喫、久美浜、小町公園、岩滝、阿蘇海、一字観公園等海辺に広がる景勝地へのドライブで活気を得、春には筍料理、よもぎを摘んでよもぎ餅づくり、敬老会には紅白饅頭、春秋の彼岸には牡丹餅、おはぎ、満月の夜はすすきと萩、だんごを供えてお月見、節分に巻きずし等を楽しみ、テラスからコウノトリを眺めるという、非常に生活文化の高い暮らしである。区の文化祭に利用者の力作であるちぎり絵を毎年出品しており、昨年は「猿も地蔵も紅葉色一山の温泉」という作品、紅葉色の利用者の顔が想像できる作品である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝2ユニット合同で夜勤者と日勤者の申し送り終了後理念の唱和を継続している。職員会議で理念の内容について検討し、日々理念に沿った支援を管理者を含め全員で実践している。	グループホームの理念「①思いやりと笑顔の介護②利用者の尊厳を守る③地域に貢献する」を開設時に策定、パンフレットに明記している。職員は朝ミーティングで唱和、理念の実践に向けて業務をしている。利用者を一人の人間として尊重し一人ひとりの思いを引き出し、叶えることを心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議では区長さんや民生委員の皆さんの出席をお願いし、地域の行事やイベント情報をお聞きしている。昨年同様夏祭り、秋祭り、中学生の福祉体験受け入れ、餅つきなどで地域の皆様と交流させていただいた。	利用者は日常的にホームの近くを散歩や買物に出かけている。近くの人から野菜や花を頂くことがある。地区の秋祭り、納涼祭、文化祭、三河内祭り等を利用者は楽しみにしている。ホームの納涼祭やクリスマス会、もちつきに地域の人も参加してくれる。地域の歌やフラダンスのボランティアがイベントの際に来てくれる。中学生の体験実習を受け入れており、来訪した中学生に認知症の研修をしている。地域への貢献はしていない。	グループホームとしての実績を積んできているので、認知症についての専門家として地域の人に認知症の研修をしたり、日常的にオレンジカフェを開催する等、地域への貢献が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学に来られる方に認知症の方々の共同生活の様子や認知症についての理解に役立てていただく情報提供をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況について入居人数、介護度変更、希望待機者、ヒヤリハット等を毎回報告を行っている。職員会議で会議の内容を報告している。今年も消防訓練に役員さんにも参加して頂いた。	家族、区長、民生委員、老人会会長、市長寿福祉課がメンバーとなり、隔月に開催、議事録を残している。ホームから利用状況、職員会議や研修、事故・ヒヤリハット、行事等を報告し、意見交換している。委員は避難訓練に参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヵ月毎に、運営推進会議、町のケア会議、GH事業所会議等で市町村の担当者から情報提供頂いたり相談したりしている。日常の業務で疑問点があれば、その都度担当者に直接問い合わし相談している。	市には必要な報告・相談を怠らず連携している。地域ケア会議に参加している。市内の8グループホームで事業所連絡会があり、情報交換等をしている。認知症ネットワークに参加、徘徊模擬訓練をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内、外部研修を通じて身体拘束についての勉強会を行っている。言葉による拘束を含め、緊急やむを得ない場合の3要件を理解し、夜間のベッド柵使用の場合ご家族様に説明し確認書を頂いている。玄関の施錠はしておらず出入りは自由に行っている。	「身体拘束をしないケア」を契約書に明記、職員研修を実施している。職員は身体拘束11項目、やむを得ず拘束する場合の3要件、スピーチロックについて認識している。夜間のみベッド4点柵の利用者についてカンファレンスで検討、家族の同意をとっている。玄関ドア、ユニットのドア等、日中はすべて施錠していない。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修・施設内研修で虐待防止について勉強会を行っている。新聞報道などで虐待の記事があれば回覧し、情報を全員で把握できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を理解し、ご利用者の中に後見人制度を利用されている方が有るので、生活資金が必要な場合等後見人の方に連絡し協力依頼している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、契約内容を説明し、ご本人・ご家族様に納得して頂いた上で締結している。介護保険その他契約内容の変更が有った場合、説明をし、納得頂いた上で再契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族様代表2名参加して頂き.意見、希望等お聞きしている。家族様が面接に来所された際にご意見や要望を聞かせて頂いている。	家族は毎週面会に来る人もあり、少ない人は年1回くらいである。行事の写真を多数掲載した広報誌を年2回発行、家族に送付している。家族交流会を年2回開催、約半数の家族が参加している。ボランティアによる歌やフラダンス、クリスマス会では職員のサンタからプレゼントをもらう等の楽しい会である。利用者、家族、職員が一緒に食事やケーキを頂いている。家族からの意見はあまり聞けていない。	家族は職員と共に利用者を支える大きな力である。自分の利用者のことだけでなく、グループホームで共に暮らしている他の利用者のことも含めて、このホームがよくなることを願って、ホームの運営に対して建設的な意見を積極的に提案することが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月１回の職員会議、A・B各ユニットケア会議で運営に関する意見を聞き、提案があれば運営に反映出来る様意見を取り入れている。又毎日の業務の中で提案があれば申し送りノートに記入し、職員同士で確認できるようにしている。	職員会議、ユニット会議を全職員参加で毎月開催、勤務時間外の職員には手当を出している。職員会議は運営について検討、「居室の掃除は定期的にした方が良い」「ケアのやり方を統一しよう」等、職員は積極的に意見を言っている。職員は利用者を担当、広報等の役割を分担している。法人内研修は職員のメンタリングエイドをテーマに実施、グループホーム研修は年数回実施している。外部研修は公休扱い、交通費支給、資格取得は資格手当が出る。市内グループホーム連絡会で職員同士の研修をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・ユニットリーダーが、職員各自の労働状況を確認する事で、職員の努力や実績が給与・賞与に反映出来る様な体制作りを行っている、又、時間外労働をなくすように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修、外部研修会等の参加を積極的に進め参加している。事務所内に介護資格受験のための書籍や新聞などの情報が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内6つのグループホームと職員同士の意見交換会を毎月行っている。管理者による事業者会議を2ヵ月に1度京丹後市の主催で行っている。会議で出た意見は職員会議で報告を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期では出来るだけご本人の思いや要望を聴くことが出来るように、聞き手に回るよう努めている。傾聴、共感に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で、ご本人、家族様の困っておられる事・希望を聞かせて貰い、解決策を提案、納得して頂いた上で入居して頂ける様努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者・家族様から頂いた情報の中から安心・安全のためにまずしなければいけない情報を見極め、その後のサービスに生かせる様活用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者が介護される立場ではなく、自分の出来る事をやって頂き、暮らしを共にする者同士だという関係を築いていよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人だけでなく、ご家族様の体調や心配事を面会時にさりげなくお聞きして家族様の心身のケアや相談も受けています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の方が面会に来られ、野菜や果物を持参されたり玄関に花を置いて頂いたりしている。時々自宅に帰宅されたり、同窓会、老人会があれば、家族様の協力を頂いている。	利用者の自宅を見たいという希望で同行している。同窓会に参加したいという利用者を家族の協力も得て外出着におしゃれをして同行している。	利用者は長い人生を過ごしてきて最後のステージをグループホームで暮らしている。昔可愛がっていた姪や甥、仕事仲間や趣味で親しくしていた友人等、しばらく会っていないけれど一度会いたいと思っている人、また夫と初めて出会ったところ、毎年花見をしていたところ、もう一度食べてみたい昔好きだったお菓子等、会いたい人や行ってみたい場所等を聞きだし、支援することが望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席で仲の良い利用者様を隣にしたり、気の合わないご利用者が隣り合わせにならない様見守りをして配慮している。職員の話題の提供により会話が弾んで和やかな雰囲気になるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了により退所されると連絡が途絶えがちになりますが、後に郵便物が届いて、連絡を入れたりしたとき等にその後の様子を聞かせて頂いたりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや意向は、プライバシーに配慮し居室で相談させて頂いている。又日々の言動の中で希望や意向が有った場合職員同士で情報共有を行い、把握に努めている.。	利用開始時には管理者とリーダーが利用者や家族と面談、医療や介護の情報を収集すると共にそれぞれの思いを聴取している。「グループホームの暮らしに慣れたい」「みんなとおしゃべりがしたい」「俳句をつくりたい」「楽しみをみつけたい」等、利用者それぞれの思いを聞き出している。峰山町出身、息子は2人等、聞いている人もあるものの利用者の生活歴の情報は非常に少ない。	グループホームでの利用者の暮らしを支援するためには利用者を深く理解することが欠かせない。出身地、両親、兄弟姉妹等生家のこと、子ども時代、現役時代の仕事や趣味、活動、夫の仕事や子どものこと等結婚生活、以上のような情報を聞き出し、積み重ねて記録に残すことが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや情報提供により得られた生活歴・生活環境等を元に、ご本人の記憶の範囲内で情報確認を行っている。ご本人に聞けない事柄は家族様に教えて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中でいつもと違う様子だったり、出来ていたことが出来なくなったりと言った変化に注意し観察を行っている。ケア会議で議題に挙げ職員間で情報把握に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画、モニタリングを各担当職員がサービス計画担当者と相談しながら計画書を作成し、ケアマネージャーが確認し、最終的に作成している。 軽微な支援内容については、ケア会議を通じ、職員で検討し行う様にしている。	計画作成担当者と利用者の担当職員がアセスメントし介護計画を作成、ケアマネジャーが点検し、ユニット会議で検討している。身体介護も暮らしの楽しみの項目もどの利用者にも共通の項目が多く、利用者ごとに個別であり、具体的であるという点が不十分である。介護記録は時間ごとの利用者の様子を書き、介護計画の実施記録になっていない。モニタリングは「実施状況」「目標達成度」「利用者・家族の満足度」「今後の方針」の項目で点検し、記録に残している。	介護計画は一人ひとりの利用者別に身体介護も暮らしの楽しみも含めて個別であり、職員によくわかるように具体的に書くこと、介護記録は介護計画を実施した時の利用者の発言や表情、拒否があった時はその要因を書き、モニタリングリングの根拠となるようにすること、以上の2点が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録に様子やケア内容を記録している。夜勤者、早出、遅出の職員間どうしで引継ぎを行い、情報を共有している。ご本人の発せられた言葉や様子を記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出したい、自宅に戻ってみたい等職員体制がゆるすかぎり、一つでもその人のニーズに対応できるような支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の祭りや文化祭への参加、図書館の利用など支援として活用している。日常的な地域のボランティアによる餅つきをはじめ歌や踊りを披露される近隣の方がおられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の希望を大切にして、協力医院の往診に付き添い、その他の通院はご家族様が付き添われ受診して頂いている。ちょっとした体調の変化も主治医に伝え家族様にも報告している。	協力医療機関である安井医院と大宮診療所の医師が利用者のかかりつけ医となっており、毎月往診を受けている。利用者や家族の希望により従来の医師をかかりつけ医としている人もあり、家族が受診に同行している。その際グループホームでの利用者の様子は職員がサマリーをまとめ医師に伝えている。認知症の受診は京都府北部医療センターを利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は不在だが、系列の看護師にちょっとしたことでも相談できる体制はある。協力医と連携して適切な受診や看護が受けられるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は可能な限り職員が面会し関わりを行い認知症状の緩和に努めている。服薬と通院程度の医療ならば退院に繋げる様働きかけスムーズな利用復帰に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで	現在は看取りをする十分な体制は整えられていないが、家族様には入所時に重度化、終末期に向けた方針を説明している。医師、家族様、関係者が相談できる体制作りが急がれる。	利用者の重度化や終末期に関して、グループホームでの看取りの対応はできないという方針であり、契約時に利用者と家族に説明している。特養等に申し込みをしている家族が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調の急変について緊急搬送を行った事がある。 AEDにより、初期対応の訓練を行い実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設のマニュアルを作成しており、毎年見直し、確認をしている。運営推進会議で協力依頼したり、市からの情報も参考にしている。近所の方や推進会議の役員様の参加を頂き年2回火災非難訓練を実施している。	消防署の協力を得て年2回、火事に対する避難訓練を実施している。その際、運営推進会議の委員や近くの人が参加してくれる。地震、風水害、夜間帯の避難訓練は実施していない。備蓄を準備している。ハザードマップは掲示していない。災害時における法人内相互協力体制の規定はない。	避難訓練は火事のみならず、地震や風水害、夜間帯も含めて、職員の身に付くように年数回は実施すること、ハザードマップをスタッフ室に掲示し、職員は危険個所を認識しておくこと、災害時における法人内相互協力体制の規定を作成すること、以上の3点が望まれる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	第三者に聞かれても不快を感じないよう配慮し、丁寧な言葉で話すよう心掛けている。スピーチロックの研修を行って言葉による拘束の内容を把握し、命令口調は禁止している。	理念にもあり利用者の尊厳を大事にした言葉遣いや対応をするように心掛けている。職員会議はスタッフ室で、職員同士の申し送りは小声で行い、利用者のプライバシーに配慮している。毎日の暮らしでどんなことも利用者に決めてもらいたいとの思いで利用者に話しかけ、したいことを聞いている。お茶の時間の飲み物も利用者の意志に添うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	はい・いいえで答えるような質問の仕方を少なくしている。上手く表現できない方には、日々の観察で得られた情報を職員全員で共有し、いくつかの選択肢から自己決定出来る様質問の幅を広げるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ食事や入浴の時間をずらす事もあります。食事に時間がかかる方には焦らせない様、「時間がかかっても良いですよと」声掛けをし、ペースを崩さない様配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅から持参された好きな服を着用して頂いている。出来る方は自由に着こなしをして頂き、出来ない方はご本人のイメージに合わせて、天候や行事に合わせて職員が支援させていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の残存能力に応じて調理補助、盛りつけ、味付け、配膳準備を一緒に行っている。ご利用者の好きな物、嫌いな物を聞き、嫌いな物があれば調理方法を考えて摂取して頂く様配慮している。	カロリー値、栄養バランス点検済みの献立とその食材がタイヘイから毎月配達され、職員は利用者と一緒に調理している。献立や食材についての意見はタイヘイに伝え、改善してもらっている。朝食から一汁一菜のしっかした献立であり、和風の家庭料理である。利用者から食べたいものの声が上がると買物に出かけ、手作りしている。丹後寿司、やきそば、お好み焼き等が人気である。職員も共に食卓を囲み、会話しながら食事を楽しんでいる。認知症による食事摂取に課題のある人はいない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス等、一人ひとり個別対応している。既往歴に注意し、塩分量、糖分の過剰摂取が無い様気を付けながら支援している。服薬の中には禁止食材がある為気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後働きかけを行い、口腔ケアを行っている。出来る方はそのまま見守り、出来ない方は洗面所まで誘導しご自分で洗って頂く様促している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し排泄状況を把握している。紙パンツやパットなどご本人に合った排泄用品を使用するように心掛けている。尿意の無い方も時間を決めてトイレ誘導を行っている。	ほとんどの利用者は尿意があり、自身でトイレに行くことができる。職員は利用者の立ち上がりやしぐさ、表情等により声掛けトイレに同行している。多くの人はリハパン、パットを使用しており、布パンツの人も数人いる。夜間はポータブルトイレを使っている人もいる。水分、運動、食材等で薬に頼らない排便を支援している。服薬している人もいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、水分をしっかり取って頂く様職員間の連携に努め個々に対応した予防に取り組んでいる。オリーブオイルを調理に混ぜて摂取して頂いたり牛乳、ヨーグルトを摂取して頂いたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望を確認し、湯の量や湯加減の希望を聞いたり、入浴中はゆっくり湯船につかって頂き世間話をしながらリラックスして頂けるよう心掛けている。同性介助を希望される方には同性で対処している。	浴室は広め、ゆったりとした浴槽を据え、浴槽の横に大きな窓があり明るい。入浴時間は午前中に設定し声掛けしている。午後や夕方に入りたい、ゆっくり浸かっていたい、湯の温度等、利用者の思いに添っている。週2回以上の入浴を心掛け、希望する人には3回以上を支援している。季節にはしょうぶ湯等を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日就寝時間・起床時間を記録し睡眠パターンの把握に努めている。就寝時、適温になるよう個々に空調を調整している。希望者には湯たんぽやホットミルクの提供を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診などにより薬の変更が有った場合、薬の名前、効能副作用など必要な情報を受診・往診記録に記載し、申し送りノートに記入し引継ぎを行い職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書が好きな方には、本を提供したり調理や片付け、掃除等は本人の「やりたい」気持ちを尊重して手伝って頂いている。音楽に興味のある方には合唱やカラオケを一緒に歌っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、近所への買い物、なじみの場所など自発的な要望を伺ったり会話の中に出て来る事柄から推測して行きたい場所、見たい物がある場所に外出できるようにしている。回転寿司、ランチ、鉄道乗車等の希望があれば出掛けている。	気候が良く、天気が好ければ、車椅子の人も含めて前庭に出て外気にあたり、日光浴をしたり、畑仕事をしたり、近くのスーパーに買物に行く等、毎週のようにしている。また小町公園、岩滝、あじわいの郷、プラネタリウム、リフレかやの里、一字観公園、魚っ知館等へのドライブは冬季を除いて年10回以上している。お菓子が買いたい、本を見たい、図書館に行きたい等、利用者の願いに添って個別の外出をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を渡してもどこにしまったか判らなくなる方は事務所で保管し、買い物など必要時にお渡ししています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	何時でも自由に電話が掛けられる事をご利用者に伝えています。電話が掛けられない方は相手の方が出られるまでお手伝いしています。手紙が読めない方には職員が代わりに読ませていただきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は季節の花を飾ったりソファーに腰かけながら外の景色を眺めたり生活したりするスペースがあります。玄関先には.プランターに野菜を植えご利用者と一緒に収穫しています。	前庭のプランターに季節の花を植え、畑では野菜を作っている。緩やかなスロープを上がり玄関を開けると正面に季節の見事な花を生けている。その両側に2つのユニットがあり、キッチン付きの居間兼食堂には大きな食卓と椅子、内裏の雛飾りや行事の写真等を飾り、ゆったりと落ち着いた明るい雰囲気である。窓際のテラスから大宮町の四季の風景が見える。時にコウノトリが飛んできたり、鉄道が走り、利用者のお気に入りの場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり居心地の良い場所となるように工夫している。時間があれば気の合ったご利用者同士おしゃべりが出来るように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族には、親しんだ物品を居室に持ち込んで頂く様入居時から働きかけを行っている。居室内には使い慣れた家具や手作りの品物、家族様の写真を置かれています。又.お膳にお供え物をして陰膳をされいる方もおられます。	格子戸を開けると洋間の居室、ベッド、木製の落ち着いたチェスト、椅子等を備えている。利用者は衣装掛けを持ち込み、自身のお気に入りの衣類を掛けている。テレビや使い慣れた机等を置き、家族の写真、小さなマスコット、愛用の時計を飾り、趣味の俳句づくりのノートや筆記具、壁にはひ孫が作ってくれた花かご、カレンダーを掛けている。仏壇の位牌にお茶を供えている等、いずれも利用者のその人らしい部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人ひとりが自立して生活が出来るように安全性に配慮してあります。廊下やトイレも広く車椅子でも十分対応出来ています。		